

- 問1 日本とタイの貿易について述べた次の文のうち、近年の状況を正しく説明しているものはどれですか。なお、1993年から2016年にかけて、日本への輸入総額は約2兆円から約5兆円へと拡大した統計データがあるものとします。 (2020年 東京都公立入試 類似)
1. 中国との貿易は縮小傾向にあり、日本企業による独占的な投資が続いている。
 2. 日本への輸出は依然として米などの穀物が中心であり、工業製品の割合は低下している。
 3. 工業化の進展により、日本への輸入額のうち電気機器の占める割合が2割を超えている。
 4. 日本企業の進出数は、1990年代と比較して安価な労働力を求めてベトナムへ移転したため減少している。
- 問2 アフリカ州の鉱産資源について述べた資料において、プラチナやコバルトといった資源の輸出が経済を支えている状況が見られます。これらの資源の性質や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
1. 腐食しにくく、古くから宝飾品や通貨として世界中で高い価値を認められてきた金や銀などの総称である。
 2. アルミニウムのように密度が小さく、軽量化が求められる航空機の機体などに多用される金属の総称である。
 3. 地殻内での埋蔵量が少なかったり、純粋な金属として取り出すことが難しかったりする金属の総称である。
 4. 鉄を主成分とし、磁石に吸い寄せられる性質を持つ、大規模な鉱山で安価に採掘される金属の総称である。
- 問3 日本の東方沖では、低緯度側から北上する暖流と、高緯度側から南下する寒流がぶつかり合っています。このように異なる性質の海流が合流し、プランクトンが豊富で好漁場となる場所を何と呼びますか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
1. 排他的経済水域
 2. 潮境
 3. 大陸棚
 4. バンク（浅瀬）
- 問4 世界と日本のつながりを示す統計において、1980年から2014年にかけての神戸港のコンテナ取扱量の変化について述べた文として正しいものはどれか選びなさい。 (2017年 大阪府公立入試 類似)
1. コンテナによる輸送は衰退し、1980年以降はパレク（パラ積み）貨物が主流となった。
 2. 2014年のコンテナ取扱量は、1980年の取扱量を上回っている。
 3. 神戸港は1980年から2014年にかけて、世界最大のコンテナ取扱量を維持し続けている。
 4. 2014年のコンテナ取扱量は、1980年の取扱量を下回っている。
- 問5 中国地方の略地図において、山陰地方の海岸沿い、現在の島根県にあたる位置に記される歴史的な鉱山があります。戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出し、2007年に世界文化遺産に登録されたこの場所の名称を選びなさい。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 足尾銅山
 2. 石見銀山
 3. 佐渡金山
 4. 別子銅山
- 問6 日本の石油化学コンビナートの所在地を示した資料を確認すると、その拠点のすべてが海岸沿いの臨海部に位置しています。このように、石油化学工業が主に臨海部に立地している理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 製造工程で大量の電力を消費するため、山間部にある水力発電所からの送電口スを最小限に抑える必要があるため
 2. 主原料である原油のほとんどを海外からの輸入に頼っており、大型タンカーが接岸しやすい水深の深い港が必要であるため
 3. 製品が非常に重いため、内陸の消費地へ運ぶ際の輸送コストを抑えるために鉄道網の起点を確保するためがあるため
 4. 原料となるナフサを国内の油田から直接パイプラインで引き込む際、地盤の安定した沿岸部が最適であるため
- 問7 日本の高度経済成長期における鉄鋼業の生産動向について、ある伝統的な工業拠点の統計資料から読み取れる状況を説明した文として、最も適切なものはどれですか。なお、この時期の日本全体の鉄鋼生産量は著しく増大していたものとします。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
1. 海外から安価な鉄鋼が大量に輸入されたことにより、国内の主要な拠点では生産量が減少し、全国シェアのみが維持された。
 2. 高度経済成長によって国内需要が飽和したため、特定の拠点に生産を集中させることで全国シェアを大幅に拡大させた。
 3. 拠点での生産量そのものは大きく増加したが、全国の総生産量がそれを上回る勢いで増えたため、全国に対する生産シェアは低下した。
 4. 日本全体の産業構造が軽工業中心へと変化したため、鉄鋼業の拠点では生産量と全国シェアがともに著しく減少した。
- 問8 ある国の貿易データによると、輸出総額のうち原油が80.6%を占めており、上位の輸出品目が特定の資源に集中しています。このような国の貿易構造の特徴を表す説明として最も適切なものを選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 自動車や精密機械などの工業製品の輸出が大半を占める貿易構造である。
 2. 特定の鉱産資源の輸出への依存度が非常に高い貿易構造である。
 3. 加工貿易を中心とした、高付加価値製品主体の貿易構造である。
 4. 小麦や大豆などの農産物を中心に輸出する貿易構造である。
- 問9 島根県の石見銀山では、16世紀に「灰吹法」と呼ばれる新しい精錬技術が導入されたことで生産量が飛躍的に増加しました。この出来事が当時の日本や世界に与えた歴史的背景・影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)
1. 大量の銀が産出されたことで、江戸幕府は世界で初めて金・銀・銅の三貨制度を確立し、鎖国下でも国内だけで完全に自給自足の経済を実現した。
 2. 銀の精錬に大量の石炭が必要となったため、周辺の島根県一帯で炭鉱開発が進み、日本におけるエネルギー革命の先駆けとなった。
 3. 銀の生産効率が向上したことで、日本産の銀がアジアやヨーロッパとの交易における主要な支払い手段となり、世界経済に大きな影響を与えた。
 4. 鉄を精錬する技術が銀の精錬に応用されたことで、石見地方は日本最大の鉄砲生産地となり、戦国時代の合戦の形態を大きく変えた。
- 問10 日本の工業において、九州地方が「シリコンアイランド」、東北地方の高速道路沿いが「シリコンロード」と呼ばれるようになった要因として、共通する工業製品の立地上的特徴を説明したものを選びなさい。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
1. 広大な土地を必要とするため、地価の高い都市部を避けて沿岸の埋立地に立地している
 2. 空港や高速道路のインターチェンジ周辺に立地し、トラックや航空機による輸送を活用している
 3. 原料が安価で重いため、輸送コストを最小限に抑えられる貿易港の周辺に立地している
 4. 水資源を大量に消費するため、地下水が豊富な山間部のふもとに立地している
- 問11 二〇一〇年度と二〇一九年度の日本の発電電力量の割合を比較した統計において、東日本大震災以前は全体の約四分の一を占めていたものの、震災後に安全性の懸念などから稼働が制限され、大幅に割合を減らした発電方式はどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)
1. 太陽光発電
 2. 火力発電
 3. 原子力発電
 4. 水力発電
- 問12 日本の九州地方には多くの火山が存在しており、地下の熱や水蒸気を利用した発電所が複数立地しています。この地域特性を生かした再生可能エネルギーによる発電方法として最も適切なものを1つ選びなさい。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 風力発電
 2. 地熱発電
 3. バイオマス発電
 4. 水力発電